

トピックス

学会大会印象記

日本植物防疫協会 研究所 ^{たか}高 ^ぎ木 ^{かず}一 ^お夫
 静岡県病害虫防除所 ^{まき}牧 ^の野 ^{たか}孝 ^{ひろ}宏

I 第49回日本応用昆虫学会大会

2005年3月24日から26日まで玉川大学において開催された。30年前に第19回大会が開催された思い出を語る人々も多く、特に変わった趣向はないが、例年通り盛大な学会であった。しかし、内容的には学会誌のオンライン化や原稿のメール添付受付などの言葉が飛び交い、経費の節約になるなら雑誌の送付は必ずしも必要ではないという発言もあり同感であった。時代の流れに沿ういろいろな変化が感じられた。

学会賞を受賞された若村定男氏・戒能洋一氏の研究は長年のそれぞれの専門分野におけるパイオニアとしての研究とその継続の努力が実ったものとして評価された。特に基礎研究と応用面の融合という応用動物昆虫学会の当初の目標からして、誰も納得の行く受賞であろう。

今大会では時代の要請を反映して害虫防除ではIPM関連の課題、基礎的な部門では昆虫同士の相互関係や他の生物との相互関係に注目した研究発表が多かった。

また農業が環境に及ぼす様々な影響について多くの人々が関心を持っていることがうかがわれた。他には農業以外の産業分野と関連して昆虫の研究が注目されていることが目についた。個々の害虫の生態や防除についてはスモモヒメシンクイ、カキノヘタムシガ、チャノホソガ、モモノゴマダラノメイガなど重要害虫のフェロモン研究が地道に続けられていること、水田のカメムシ類の生態や加害に対する防除研究に多数の研究者が取り組んでいるが、経済的被害水準の問題もあり、明るい道はまだ見えてこないという印象を持った。発表課題全般には温暖化現象の反映か？ 南方に分布する昆虫が北進している例が多いようにも感じられた害虫の防除手段として農薬の役割は依然として重要であるが、関連した発表が年々減少しているのは時代の流れであろうか？ 農業学会においても殺虫剤に関する発表が少ないことも思い合わせ、今後ドリフトや抵抗性をクリアした薬剤防除の研

究発表が期待される。次年度は50回大会を記念する大会が3月27日から29日まで筑波大学において開催されることが決まった。

大会実行委員と玉川大学の関係者には、大会を盛り上げるために大変なご努力ご援助を頂いたことに改めて感謝いたしました。

II 平成17年度日本植物病理学会大会

2005年3月29日から31日まで、静岡県の運営するグランシップ（静岡市）において開催された。静岡で初めて開催された大会であったが、日本の中心に近く、地の利を得て1,000名を越す参加者があり、また、好天にも恵まれて大変盛大な大会となった。グランシップは、演劇芸術のために作られた会場のため天井が高く、圧迫感の少ない発表しやすい雰囲気があった。今回は装置の信頼性の関係からOHPが使用されたが、コンピュータ利用の希望も多く出された。

新会長の道家紀志氏は、今年度日本農学会賞を受賞され、植物病理学を志すものとして心よりお祝い申しあげる。会長講演では、難解な感染応答の分子機構について分かりやすく解説された。

学会賞を受賞された荒瀬榮氏・久保康氏・那須英夫氏の研究は、何れも実用場面における利用価値の高い研究で、植物病理学が実学であることを強く印象づけられた。長年の研究努力が実を結び評価されたもので、心より尊敬申し上げる。

今大会も、最近の傾向を反映して分子生物学的研究が非常に多く、感染生理、ウイルス分野のみならず全ての分野に及んできている。研究は実用的に応用可能な領域まで進展し、ブレーク寸前まで迫っていることが感じられた。

また、農業基本計画の見直しにより、環境負荷の低減が農業政策の重要な目標になり、総合的病害虫管理(IPM)は、その中核となった。IPMの実践に資する防除技術として、生物防除では、*Bacillus* 属菌を利用した報告が多く見られた。また、還元消毒法、無機鉄の利用、水溶性ガラスや二酸化チタンなど多様な防除技術の開発

The Impression on 2005 Annual Meeting of Society. By Kazuo TAKAGI and Takahiro MAKINO

(キーワード：日本植物病理学会，日本応用動物昆虫学会)

に関する報告も見られた。今後、これらの防除技術を統括、最適化する戦略的 IPM に関する報告が期待される。

先に開催された、日本応用昆虫学会でも殺虫剤に関する発表が少ないことが報告されたが、本病理学会においても殺菌剤に関する報告が少なかった。農薬の開発能力の低下が根底にあるとすると、米を中心としたアジア、

また、世界の基礎食糧確保の視点からも農薬開発は不可欠であり、重点的な政策的サポートが必要と思われた。

静岡大会は、静岡大学及び関係者の努力と名古屋大学など東海地区皆様の強力なサポートによって、成功裡に終了いたしました。

登録が失効した農薬 (17.5.1 ~ 5.31)

掲載は、種類名、登録番号：商品名（製造業者又は輸入業者）登録失効年月日。

「殺虫剤」

- NAC 粉剤
12365：一農セビン粉剤 2（第一農薬）2005/05/04
- BT 水和剤
20189：レピタームフロアブル（日本曹達）2005/05/11
- シロマジン水和剤
19239：トリガード水和剤（シンジェンタ ジャパン）
2005/05/13
- エチオン・マシン油乳剤
19236：ミカノール（日本農薬）2005/05/13
19237：エチマシシ（住友化学）2005/05/13
- DEP 乳剤
18363：アグロスディプレックス乳剤（住友化学）
2005/05/19
- MEP 乳剤
18132：アグロスミチオン乳剤（住友化学）2005/05/25
- BPMC・MPP 粉剤
18375：バイエルバイバッサ粉剤 DL（バイエルクロップ サ
イエンス）：2005/05/27
- フェンバレレート・NAC 水和剤
19240：ピレナック水和剤（住友化学）2005/05/27
- ハルフェンプロックスマイクロカプセル剤
19242：アニバース MC（三井化学）2005/05/27
- マラソン・BPMC 粉剤
15767：マラバッサ FD（協友アグリ）2005/05/31

「殺菌剤」

- EDDP 乳剤
9868：三共ヒノザン乳剤 30（北海三共）2005/05/01
- フェンヘキサミド・フルジオキシニル水和剤
20847：シンジェンタ・ジャストミート顆粒水和剤（シンジ
エンタ ジャパン）2005/05/17
- ジメトモルフ・銅水和剤
19509：フェスティバル C 水和剤（BASF アグロ）
2005/05/17
- オキシリニック酸粉剤
17958：アグロススターナ粉剤 DL（住友化学）2005/05/25

「殺虫殺菌剤」

- フィプロニル・プロベナゾール粒剤
21000：バイエルオリゼメートプリンス粒剤（BASF アグロ）
2005/05/12
- ベンスタップ・カスガマイシン・バリダマイシン・フサ
ライド粉剤

- 17580：ホクコーカスラブバリダルーバン粉剤 3DL（北興化
学工業）2005/05/17
- クロルピリホスメチル・フルトラニル粉剤
19246：レルダンモンカット F 粉剤 DL（日本農薬）
2005/05/27
- テブフェノジド・イソプロチオラン・フルトラニル粉剤
19244：フジモンロムダン F 粉剤 DL（日本農薬）2005/05/27

「除草剤」

- ベンタゾン・MCPA エチル水和剤
13375：石原グラスジン M 水和剤（石原産業）2005/05/07
- ベンタゾン・MCPA エチル水和剤
13374：グラスジン M 水和剤（日産化学工業）2005/05/07
- ベンタゾン・MCPA エチル粒剤
13373：石原グラスジン M 粒剤（石原産業）2005/05/07
- ベンタゾン・MCPA エチル粒剤
13372：グラスジン M 粒剤（日産化学工業）2005/05/07
- ベンタゾン・2,4-PA 水和剤
13371：石原グラスジン D 水和剤（石原産業）2005/05/07
- ベンタゾン・2,4-PA 水和剤
13370：グラスジン D 水和剤（日産化学工業）2005/05/07
- ベンタゾン・2,4-PA 粒剤
13369：石原グラスジン D 粒剤（石原産業）2005/05/07
- ベンタゾン・2,4-PA 粒剤
13368：グラスジン D 粒剤（日産化学工業）2005/05/07
- グルホシネート液剤
17582：ヘキストバスタ液剤 0.2（バイエルクロップ サイエ
ンス）2005/05/17
- 17583：日産バスタ液剤 0.2（日産化学工業）2005/05/17
- グリホサートナトリウム塩・MDBA ナトリウム塩水溶液
18356：パドアップ（シンジェンタ ジャパン）2005/05/19
- 18357：モンサントパドアップ（日産化学工業）2005/05/19
- ピラジキシフェン・プロモブチド粒剤
16306：住化ノックワン粒剤（住友化学）2005/05/25
- ピラゾレート・プロモブチド・メフェナセツト粒剤
18421：アグロスリードゾン粒剤（住友化学）2005/05/25
- ビフェノックス・ピリブチカルブ・プロモブチド水和剤
18616：アグロスレトリーフロアブル（住友化学）
2005/05/25
- カフェンストロール・プロモブチド粒剤
19398：カルダ 1 キロ粒剤（住友化学）2005/05/25
- ブタミホス・DBN 粒剤
19248：ホクコーカットワン粒剤（北興化学工業）
2005/05/27